

国際センター通信(No.118)

土木学会誌 8月号インタビュー

内向きだった目線を外へ開いて 多様な声が聞こえる土木学会に

北海道大学から深圳大学へ研究教育の最前線

ご就任おめでとうございます。東京生まれの上田会長は、長年北海道大学で教鞭を執られていました。

私が東京大学に入学した当時は田中角栄首相による日本列島改造論で社会が沸き立ち、土木に対する関心が非常に高まっていた時期でした。また、「世紀の大事業」と言われた黒部ダムの完成には胸を熱くするものがあり、それで土木の道を志したようなものです。

コンクリート研究室で岡村甫先生に指導いただき、アメリカの大学で2年間研究生活を送り、今度は西野文雄先生のお力添えで、タイのアジア工科大学で3年間教員生活を送った後、北海道大学に着任しました。東京で育ったものですから北海道は、やはり憧れの地。都内にある民間企業の研究所に就職という道もありましたが、今は正しい選択だったと思っています。



第110代土木学会会長
上田 多門

土木学会でのご活動は？

私の専門がコンクリート構造や複合構造ですので、90年代からコンクリート委員会の常任委員を、2005年に新たに立ち上がった複合構造委員会では初代の委員長を務めました。

上田会長は学会きっての「国際派」で知られ、2012年の国際センター設立から7年間、センター長の大役もお務めになりました。

「国際派」とは面はゆいですが、本人には全くそんな意識はないんです。ただ、この度の土木学会会長就任にあたり、国際センター時代にやり残した“宿題”に力を注いでいきたいと考えています。最大の課題は、内向きだった日本の土木の目線をいかに外へと開いていくか。新しく立ち上げる委員会などについての詳細は、今後続く学会誌での会長からのメッセージで解説します。

北大を退職後、中国の深圳大学から声を掛けていただき、特聘教授になりました。現在、現地でも生活しておりますと、さまざまな場面で日本の土木の閉塞(へいそく)的な現状を実感します。特にインフラ面は、40年前に私が留学した当時は全米各地に立派な国際空港を擁するアメリカが世界のトップでしたが、今は経済発展が目覚ましい中国がライジングスター。翻って日本に目を向ける

と、戦後巨額を投じて整備されてきたインフラは、今や課題が山積みですよね。高速道路や新幹線を例にとっても、果たして機能面で本当に世界に誇るものになっているのか。今こそ目をそらさずに、しっかりと検証する必要があると感じています

若手、女性、外国出身会員の存在感を高める場づくりを

日本と中国、研究教育の面にも違いはありますか？

日本と中国は圧倒的に人口が違うという前提はもちろんありますが、中国は研究者も競争社会。論文の投稿数や助成金の規模など、それら全てが自分の実績となり、将来の人生設計を支えるものになる。若手がやる気に溢れ、こうした個々人の頑張りや成果が国全体の土木研究の質を底上げしています。博士課程進学者も奨学金が充実し、生活が保証されているので、優秀な人材がきる。日本もぜひ、見習いたいところですよ。



2022年5月18日（水）北海道石狩郡にて

こう比較ばかりしてしまうと、日本に良いところがまるでないように思われるかもしれませんが、私自身、根は楽観主義者です(笑)。日本にも非常に優秀な若手研究者、技術者たちは確実にいます。彼らの声をもっと聞こえてくるような場づくりも、これから実践していきたいことのひとつです。

特に期待しているのは女性会員の活躍です。中国や他の国でも目を輝かせて活躍している女性研究者・技術者はたくさんいます。もしかすると、世界の沈滞ムードを打破してくれるのは女性たちなのではないかと思うことも少なくありません。日本では絶対数が少ないため、その声が拾いづらくならないように丁寧に耳を傾けていきたいですね。

ダイバーシティの観点から外国出身の会員についてはどうお考えですか？

残念ながらこれまでは、外国出身の会員の発言を積極的に聞いたり、議論する場を設けることができていませんでした。それもこれからは、変えるとき。若手や女性会員、外国出身の会員が発言しやすい場を設け、皆の視点で課題解決に取り組んでいく。そうした場の一つ一つの積み重ねが、次は彼らが意思決定の場に進む道筋につながっていく。そんな流れを作ることが、土木の将来のためにも必要不可欠だと思います。

今後、学会誌に期待することをお聞かせください。

2021年11月に土木学会と日本建築学会が覚書を交わしました。これからは両者が協働してグローバルな課題に対応していくことは、7月号の就任挨拶でお伝えした通りです。その一環として今後お互いの学会誌で定期的に展開する両学会共同企画も、編集委員の皆さんにご提案できたら、と思っています。

またもう一つは、今も進んでいる学会誌のデジタル化をさらに促進していただきたいですね。最近自動翻訳機能も充実しているため、先ほどお話ししたような日本語が得手ではない外国出身の会員も、翻訳機能を使うことでリアルタイムに情報共有ができるはず。私も深圳にいながらにして

皆さんと同時に学会誌の最新情報を受け取れます。また、情報整理も容易ですので、会長としての活動にも迅速にフィードバックしていきたいと考えています。

本日はありがとうございました。

【聞き手: 岩城 一郎 (土木学会誌 編集委員長)】

【執筆: 佐藤 優子、撮影: 伊藤 留美子】

世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ第 20 回シンポジウム 「ミャンマーにおける沈下橋の建設」

2022年5月24日(火)、土木学会国際センター主催により、世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ第20回シンポジウム「ミャンマーにおける沈下橋の建設」がハイブリッド形式で開催しました。このシンポジウムは、ミャンマー国において、外務省無償資金を活用して、通常の橋梁整備とは異なり、地域住民のニーズ、現地の状況を踏まえて、低コストで建設できる沈下橋の建設を実施した中で、日本の技術者が橋梁の設計、施工のみならず、完成後の維持管理についても、現地の技術者、地域住民に対して直接指導したものです。沈下橋の建設は、2016年よりNPO法人国際インフラパートナーズ(JIP)により進められてきましたが、ミャンマー国の地域住民、政府、自治体から高く評価され、現在に至るまでに12橋が完成されています。この取り組みに対しては、アジア・オーストラレーシア道路技術協会(REAAA)の2021年次総会において三野賞が授与されています。今回のシンポジウムでは、対象になった沈下橋建設は、従来日本が発展途上国のインフラ整備を支援してきたものとは異なり一つの事業の規模は小さいですが、このように現地政府のみならず特に地域住民からも高く評価された日本の土木技術者の経験、実績が海外で大きく評価されたものです。



世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ
第20回シンポジウム
「ミャンマーにおける沈下橋の建設」

2022年 5月24日(火) 14:00-16:10
会場: 土木会館 講堂 *オンラインシンポジウム (ZOOM利用)
主催: (公社)土木学会 国際センター・プロジェクトグループ
参加費: 無料
URL <https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/277>
TEL 03-3355-3452 (土木学会国際センター 担当: 濹谷、荒井)

認定番号: JSCE22-0499
単位数: 2.0単位



シンポジウムでは最初に、上田 多門 土木学会会長より挨拶があり、その中で、特に今回の沈下橋建設は地域のニーズに的確に応えることにより、建設後の維持管理についても地域住民の主体的な取り組みが行われていることの意義を強調していただきました。

次に国際インフラパートナーズ 理事長 中尾 忠彦 氏より今回のプロジェクトの概要が紹介され、引き続き同法人 副理事長 朝倉 肇 氏よりプロジェクトの実施にあたっての技術的な取り組みについて詳細な説明がなされました。引き続き、外務省民間援助連携室長 松田 俊夫 氏より日本 NGO 連携無償資金協力事業 (N連)の紹介に加えて、今後もこのような沈下橋事業の協力に対して前向きに検討していく姿勢を示していただきました。最後にミャンマーで現地の調査に関わった兵頭 千夏 氏より、地域住民の期待と評価について紹介していただくとともに、開通式の映像の紹介を通して、地域住民が沈下橋の建設を喜んでいる様子も紹介されました。

今回とりあげたミャンマーにおける沈下橋の整備は、同国の農村地域にとっては極めて効果のある事業で、引き続き各地から更なる整備の要望がでています。今後とも、国際インフラパートナーズを主体に、外務省の協力を得ながら整備が行われ、ミャンマー国の地域住民の生活水準の向上につながることを期待されます。

〈フィリピンマニラにおいて開催された REAAA の概要〉

<https://jip.or.jp/202109-mino-best-project-award-ceremony/>

〈プログラム〉

- ・開催日: 2022年5月24日(火)
- ・開催場所: 土木学会講堂、Zoom ウェビナー

1	沈下橋プロジェクトの概要 (国際インフラパートナーズの活動、REAAA 三野賞受賞の紹介含む) JIP 理事長 中尾 忠彦 氏
2	沈下橋プロジェクトの実施 JIP 副理事長 朝倉 肇 氏
3	日本 NGO 連携無償資金協力事業 (N連)の紹介と沈下橋事業へのコメント 外務省民間援助連携室長 松田 俊夫 氏
4	ミャンマー農村地域の実態と沈下橋の効果 ミャンマー語通訳者 兵頭 千夏 氏
5	現地からの人々の喜び (動画)
6	質疑応答

【記: 国際センター プロジェクトグループ 吉兼 秀典 (八千代エンジニアリング(株))】

国際のセンターの動き

1. 上田会長プロジェクト

上田会長プロジェクトが本格的に動き始めて2か月が経過している。しかし、昨年より準備を進めていたためにテーマを絞った議論や行事企画、情報発信がなされている。例えば、8月5日(金)に「海外事業における長大橋技術・人の継承と発展シンポジウム」(土木技術者の国際化実践小委員会主催)をハイブリッド形式にて行う。国内外の長大橋建設に携わった技術者を招き、世界をリードするに至った我が国の海洋架橋プロジェクトの発展、技術開発や人材育成を交えてお話いただく。

また、「土木工学における学術研究活動の国際化ビジョン検討小委員会」や「国際展開プロジェクト形成検討小委員会」では、日本の学術・研究面の国際競争力を強化するための道筋づくりや海外で展開できるプロジェクト形成を目指して議論を重ねている。今後、勉強会、セミナー、調査等と活動が広がっていくことだろう。随時、土木学会誌「会長プロジェクト2022」にて紹介する。ぜひご覧いただきたい。

*シンポジウム HP : https://committees.jsce.or.jp/2022_Presidential_Project02/node/13

2. 令和4年度全国大会

本年の全国大会は、京都大学と国立京都国際会館を会場に9月14日(水)~16日(金)の間で行われる。国際関連行事として、9月14日午前に行う「国際関連特別講演会」と15~16日「年次学術講演会」共通セッションにて「第24回インターナショナルサマーシンポジウム&国際若手技術者ワークショップ」を行う。前者は「土木の分岐点@ジャンクション、道、未来」と題し、国内外のベテランと若手技術者にお集まりいただき、過去の分岐点で得た経験から何を学び、これから出会うであろう分岐点を超えていくためにどのように活用するのか、そしてどのように未来への道を選択するのかを考察する。米国土木学会(ASCE)、中国土木工程学会(CCES)、JICA、大学、ゼネコン他から登壇いただく予定である。後者は、若手技術者・研究者による研究発表と、課題についてグループでディスカッションを行う2部構成である。今回のワークショップは、AIとDX技術の土木への活用をテーマに、構造工学、水工学、地盤工学、防災等の分野での活用案を考え、その有効性や課題と解決を検討する。国内外の若手技術者が一緒になって、あれこれと悩みながら答えを出そうとする姿には思わず応援を送りたくくなります。全国大会に参加する方々、そうでない方も、ぜひのぞいてみてください。

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/286>

2. 外国人技術者グループ

国際センター外国人技術者グループは、COVID-19禍にワーキンググループとしてスタートし、これまでオンラインベースでほとんどの活動を行ってきた。例えば、昨年は「Salon for International Students and Engineers in Japan」を開催し、留学生、外国人技術者そして日本企業の方々と交えて日本のインターンシップの現状と課題やこれからの期待について意見交換した。

HP (<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/220>)にて当日の様子をご覧いただきたい。

今年に入り、伊澤良則国際センター次長（安藤ハザマ(株)）の指揮下、ワーキンググループからグループへ昇格し、加えて COVID-19 対策規制が緩和されたのを機に、ハイブリッド形式でそろりそろりとミーティングを行っている。今年の活動テーマを3つ（①留学生支援、②外国人技術者支援、③ネットワーク・情報発信）に絞り、3チームを作り取り組むこととなった。メンバーは、チーム間の情報共有を心掛けながら、楽しくかつ納得のいく成果をだそうと張り切っている。ご関心のある方は、ぜひご参加ください。



外国人技術者グループ

（後列左から：アズマンさん、黄さん、ルイサさん、エダロさん、アミールさん
前列左から：ズオさん、チンダさん、ヘン サルピソットさん、伊澤センター次長）

お知らせ

【今後の予定】

- ◆「海外事業における長大橋技術・ヒトの継承と発展」シンポジウム（8月5日）
https://committees.jsce.or.jp/2022_Presidential_Project02/node/13
- ◆2022年度 土木学会全国大会 国際関連行事（9月14～16日）
<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/286>
- ◆第6回 技術基準の国際化セミナー「ラオスにおける橋梁アセットマネジメントの展開について」（9月下旬開催予定）

- ◆ふくろう多門のビデオレター No.1 & No.2
https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH
- ◆令和4年度 土木学会 会長室
<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>
 - ・「多門に多聞&多問」*上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。
<https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59>
- ◆JSCE-ASCE Infrastructure Resilience Research Group ホームページ
<https://www.infraresil.jp/>
- ◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」
<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>
- ◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)
http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021
- ◆第182回論説(2022年7月版) オピニオン
 - (1) 理工系分野におけるダイバーシティ&インクルージョンについて
<https://note.com/jsce/n/nc1b23617a494>
 - (2) サステナブル・デジタル田園都市
<https://note.com/jsce/n/n83d6e5953bd4>
- ◆土木学会誌 2022年8月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆大河津分水 通水100周年 関屋分水 通水100周年記念「6館リレー展」
<https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu100th/shousai/6mrelay.html>
- ◆JICA グローバル・アジェンダ 開発途上国の課題に取り組む20の事業構想
https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/overview/publications/global_agenda_20.html
- ◆第9回アジア土木技術国際会議: <https://cecar9.com/>
- ◆The 1st International Conference on Food Waste to Food Sustainability 2022
<https://www.polyu.edu.hk/pfs/index.php/392861?lang=en>
- ◆The 9th International Conference on Flood Management (ICFM9)
<https://www.icfm9.jp/index.html>
- ◆【9月27~29日】The 4th Asian Concrete Federation (ACF) Symposium on Emerging Technologies for Structural Longevity (ACF2022_ETSL)
<https://acf2022.aconf.org/index.html>
- ◆ヨーロッパ土木技術者評議会(European Council of Civil Engineers)関連
 - ・74th ECCE GENERAL MEETING PRESS RELEASE
https://www.dropbox.com/s/316vqqho6by850r/ECCE_Press%20Release_20220720.pdf?dl=0

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
 (<https://www.facebook.com/JSCE.en>)



【ご意見・ご質問】 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。